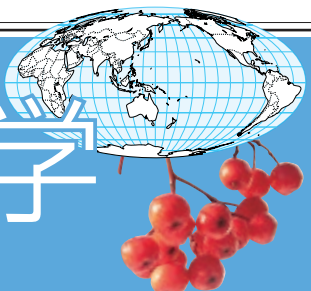


学報

学校法人 北海学園
北海商科大学
商学部〔商学科・観光産業学科〕
アジアの時代に アジアを学ぶ
Hokkai School of Commerce Newsletter



Vol.37
2024.12.20
発行:北海商科大学
編集:北海商科大学広報委員会
〒062-8607
札幌市豊平区豊平6条6丁目10番
地下鉄東豊線「学園前」駅直結
TEL:011-841-1161(代表)
FAX:011-841-0801
https://www.hokkai.ac.jp
制作:(株)ラボット

主な記事

2.	2年所属学科決定、ゼミ説明会の再開	2面
3.	データサイエンス・AI論開講	2面
4.	オープンキャンパス開催	2面
5.	高校との連携強化の取り組み	2面
6.	2024,2025のキャリア支援について	3面
7.	就職内定4年生の体験談	3面
8.	教員採用試験合格体験談	3面
9.	国際交流について	4面
10.	中国語スピーチコンテスト好成绩	4面
11.	韓国語検定能力試験、各種コンテスト入賞など	4面
12.	留学だより	5面
13.	サークルのいま	5面
14.	教員を目指す後輩応援プロジェクト開催	5面
15.	北海道庁によるセミナー開催	5面
16.	「研究のいま」 益子洋人先生	6面
17.	地域との連携活動	6面
18.	ゼミ訪問 千葉里美ゼミ	6面
19.	FD・SD研修会実施	7面
20.	市民公開講座開催	7面
21.	HSC研究会開催	7面
22.	OB・OG NOW! 吉澤直希さん	7面
23.	全国進学指導研究大会開催	8面
24.	札幌市との包括連携協定締結	8面
25.	新刊紹介	8面
26.	Wi-Fiの開設、エアコンの設置など	8面
27.	医務室から「二十代の健康」⑩	8面
28.	行事予定	8面

第17回 北海商科祭が開催される！

テーマ「自遊奔放」



来場者の参加で盛り上がったステージ企画



第17回北海商科祭が開催されました

本学学生達による一大恒例イベントとなる北海商科祭が、今年も9月14日（土）に開催されました。17回目となる今回のテーマは「自遊奔放」で、一人ひとりが楽しみながらも熱心に取り組んだ学祭を目指しました。昨年のテーマは「繋がる、輪になる、カーニバル」で、熱心に準備に取り組んだ学祭を目標にしましたし、コロナ明け後となった一昨年のテーマは「Joy of reunionー巡り合えた喜びー」で、久しぶりにみんなと再開できる喜びや幸せを感じられる学祭を志向しました。もともと大学祭は「コト消費」のイベントですが、過去3回の学祭テーマから垣間見えるのは、学生同士が繋がって楽しく一大イベントを成し遂げるとい、いわば消費行動に通じる変化です。

戦後の高度成長期頃に浸透した商品の所有に価値を見出す「モノ消費」は、モノが満ちあふれた1990年代以降になると、商品を通した体験に価値を見出す「コト消費」へと移ることが知られています。さらに2000年代以降にSNSが普及して行くと、体験なくとも様々な情報に触れるようになり、その時にその場でしか味わえない盛り上がりを楽しむ「トキ消費」が注目されるようになりました。また近年では様々な消費行為の背景を重視する「イミ消費」なんかも広く関心を集めています。どうですかみなさん、学祭を巡る学生達（消費者）の関心（消費行動）は、すっかりトキ消費に移ったと、思いませんか。（学生支援センター長 村松 祐二）



北海商科祭実行委員長
福村 柚佳さん
（商学科3年）

実行委員のみんな、ご協力いただいた方々、ご来場いただいた皆様、ありがとうございました。今年はコロナ前の規模での開催を目標にし、達成できました。来年からは後輩たちに「自遊」に創造してほしいです。

北海商科祭実行委員会報告

4月から、3年生を中心に北海商科祭の開催へ向けて実行委員の募集を始めました。そして合計21名で「自遊奔放」をテーマに活動していきました。このテーマには、個性豊かで様々な学年の実行委員で、遊ぶように楽しく北海商科祭を創ろうという思いを込めています。後輩にとっては初めての実行委員活動であり、不安があったと思います。ですが、テーマ通りの自由な発想や行動力と、学内外のたくさんの方のご協力や応援のお声をいただいたことで素晴らしい北海商科祭を創り上げることができました。実行委員の1、2年生に、北海商科祭について聞きました。

「素敵な方々の出会いと成長のきっかけをくれた実行委員会の活動は本当に最高でした！」（2年）
「準備の大変さを実感できてとても良い経験になりました。」（1年）
「企画や準備を通してチームワークの大切さを実感し役割を果たしながら、全員で北海商科祭を成功させる喜びを得ることができました。」（2年）



2 年次所属学科決定 後期履修登録

2年次所属学科の選考に際しては、5月15日から5月31日まで商学科・観光産業学科各専門教育委員長による学科紹介動画をオンライン公開しました。学科の科目構成や内容、将来の職業等の具体的な説明をして、学科選択の参考情報を提供しました。その後、学生たちが商学科（5月28日、6月4日）、観光産業学科（5月30日、6月6日）の日程でゼミを見学して、実際の内容や雰囲気を感じました。学生は各ゼミの内容、将来の職業などを検討のうえ、6月12日から6月29日までにmanabaで志望学科届の提出を行いました。

学科ごとの志望人数は、選考対象学生163名に対して商学科106名、観光産業学科57名が最終的に決定され、8月5日にmanabaと学内掲示板に発表しました。その後、9月12日から18日までの間で各年次で履修相談及び履修登録が行われ、後期の講義に対する準備が行われました。併せて、9月から設置された学内Wi-Fiに学生がアクセスできるよう説明会が行われました。また、全学生の履修登録の訂正が9月19日に行われ、後期に向けての履修登録が終わりました。今年度は4月に新LMSのmanabaが入り、9月から全学にWi-Fiが導入され、学生の学習環境が整備されました。（教務センター長 中西 良之）

ゼミ説明会の再開、ゼミ選択

今年度も夏休み期間を利用して商学科、観光産業学科のゼミ選択が行われました。コロナ禍以降、オンラインでのゼミ紹介動画をもとに学生がゼミを選択していました。今年度は、ゼミ担当教員との事前面談、および対面でのゼミ説明会を実施した上で、学生にゼミを選択してもらいました。ゼミは担当教員によって特徴があり、学ぶ内容も異なるため、学生が各ゼミについてしっかりと理解したうえで選んでもらおうとの意図です。今回の試みは、昨年度から観光産業学科が先行して実施してきた本学の魅力向上の取組がきっかけとなっています。今後も、両学科での協力の下、学びの充実を通じた本学の魅力向上に取り組んで参ります。（商学科学科長 澤内 大輔）



9月12日から始まった後期履修登録の様子

◆ データサイエンス・AI 論開講 ◆

データサイエンス科目の実施を終えて

本年度より新たに開講された1年次必修科目「データサイエンス・AI論」が、前期に実施されました。この科目は、「数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム」のモデルカリキュラムに基づき、玉井准教授、見附准教授、澤内准教授、三田村の4名が担当しました。

講義は、主に「データ・AIの社会的影響」「データサイエンス」「人工知能（AI）」「応用」の4分野で構成されており、データやAIが社会に及ぼす影響や、その技術の応用まで幅広く学習します。特に、データやAIに関する倫理的な問題にも重点を置いています。

授業アンケートでは、「これからの社会の目指すべき姿や、自分がどう生活していくかの理解が深まった」という好意的な意見が寄せられた一方、「先生によって課題の提出方法が異なるため、間違いがあった」といった改善点も挙げられました。これらのフィードバックをもとに授業の改善を図るとともに、次年度の文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」の認定を目指します。（三田村 保）



三田村先生担当のデータサイエンス・AI論

2
3

4
5

オープンキャンパス開催 来場者、過去最多に

北海商科大学の教育活動や学生生活を紹介するオープンキャンパスは2024年6月16日、8月3・4日、9月29日の4回実施しました。全道各地の高校生や保護者の皆さんが来学し、模擬講義や学生によるゼミ紹介、語学体験に参加しました。6月の来場者数は過去最多の170人、8月3・4日は同2位の251人でした。2023年度に続き、在学生が中心となって司会や来場者への説明、キャンパス施設の紹介などを実施し、好評を博しました。

本学の教育内容を紹介する活動では、英語・中国語・韓国語の語学体験や、商学科の模擬ゼミ、観光産業学科による学生プロジェクト報告を実施しました。商学科模擬ゼミでは、澤内大輔准教授のゼミのメンバーが、マーケティングについて紹介しました。観光産業学科の学生プロジェクト報告では、同学科の池ノ上真一教授、千葉里美准教授、郭倩講師の授業を履修する学生8人が、札幌市創成川イースト地区や上川管内中川町の地域振興に参加した経験を報告しました。模擬講義は、商学科の相浦宣徳教授が物流問題について、観光産業学科の三田村保教授がDX社会と観光産業の将来について講義し、時宜を得たテーマで来場者の関心を集めました。

オープンキャンパスの様子は北海商科大学の公式Instagram（インスタ）でも紹介しています。（入試広報センター長 佐藤 千歳）



北海商科大学
公式Instagram

写真左と右上：学生たちによる北海商科大学の地域連携活動の紹介。
写真右下：商科大オープンキャンパスの名物となったキッチンカーの食事を楽しむ来場者



高校との連携強化の 取り組み

10月4日（金）午後に、北海学園札幌高校の体育館にて本学と北海学園札幌高校との連携授業の発表会を開催いたしました。連携授業は、両校の教育上の連携を一層強化することを目的に今年4月から新たに開始された取り組みです。本学の教員8名が設定したそれぞれテーマの下、北海学園札幌高校の1年生に対し各4回の講義を実施しました。講義テーマは「eスポーツとまちづくり」「学園前の魅力を外国人観光客に伝えよう」「輝く！！ポートフォリオグランプリ」「企業による社会的課題の解決」など、高校生に楽しみながら本学での商学や観光の学びの一端を体験してもらえようとの意図で設定しました。講義方法も、座学だけではなく、グループワーク、外部講師を招いての講演会、留学生センターでのヒアリング、電動キックボードの試乗など、本学の特徴である実践的な学びを体感してもらうようにいたしました。

発表会の担当となった生徒には、連携授業を通じて学んだ内容をポスターやパワーポイントスライドにまとめ、1年生全員の前で発表してもらいました。発表者は緊張しているようでしたが、しっかりと準備したことが見受けられました。発表会後のアンケートでは「普段関わらない方々と意見交換ができて楽しかった」「自分が選択したテーマ以外のこ



写真は本学教員の授業で学んだ成果を発表する北海学園札幌高校の生徒



クラス専門家の講演を聞く生徒

とも興味を沸いた」ととの感想が高校生から寄せられました。連携授業を通じ、本学への理解・関心が一層高まったと思います。

この他にも、高大連携協定を締結している札幌東商業高校、札幌国際情報高校との交流、出前講義などを通じて、高校との連携を図っています。今年度は出前講義の要請も多く、原稿を執筆している10月時点ですでに昨年の2倍以上の30件近い講義が実施済みもしくは実施予定となっています。特に、今年度から開始した修学旅行対応型の出前講義が好調です。各高校の修学旅行の事前・事後学習の一環として、本学の地域研究の成果などを活用してもらう試みです。

今後も連携授業や出前講義を通じた、本学の魅力発信、高校・地域への貢献に取り組んでいきたいと考えています。（広報委員長 澤内 大輔）

2024、2025 年の キャリア支援について

昨今の就活を取り巻く現状では、就活を早期に考え始め、早期に動き始めることが求められ、そのために自分自身を知り、仕事を知り、社会情勢の推移を見据え、着実な準備をすることが大切になります。そのため、本学では3年生対象の就職ガイダンスだけでなく、1年生と2年生でも参加可能な本学独自のインターンシップを実施し、2年次前期に「職業キャリアデザイン」という講義を開講しています。

本学独自のインターンシップは、「採用と大学教育の未来に関する産学協議会」による要件に準拠したインターンシップであり、2024年度では16社の企業が協力してくれました。2025年度でもインターンシップの機会の拡充に取り組んでいきます。

職業キャリアデザインの講義では、履修者はGPSアカデミックという適性検査が無料で受検可能であり、Webテストの形式の体験と共に、自分の長所と短所の客観的把握ができます。また、外部のキャリアカウンセラーによる結果のフィードバックと結果の利用法の学びの時間も設けられています。そして、なによりも実際の企業の方から、業界の話、

企業自身の話、そして、働くということの意味、就活のポイントについて講義してもらえることが特徴です。毎年、本授業に協力をしてくれた4～6社の企業が講義をしてくれています。2024年度では、「株式会社ロジネットジャパン様」、「株式会社アシスト北海道様」、「株式会社パイロール様」、「株式会社ゆうちょ銀行様」、「国分北海道株式会社様」、「ANA新千歳空港株式会社様」にご講義を賜りました。どの企業様も、本学OB社員や若手社員を連れてきてくれるなど、履修者に働くということを具体的にイメージさせてくれるような工夫をして講義をしてくれています。

本学では、企業との協働の下に社会に有意な人材育成の努力を続け、学生が独りよがりのイメージによって選択肢を自ら狭めることがないよう、将来の選択肢を広げるための学生支援をしています。（キャリア支援センター 玉井 航太）



写真は企業の方を招いて行なった講義の様子

6

7
8

わたしたちの就活体験記

社会へ踏み出す第一歩となる就職活動は、期待とともに不安もいっぱい。先輩たちはどのようにすすめ、どのような対策をし、希望どおりの内定を勝ち取ったのでしょうか。2024年度の企業や教員への就職が決まった4年生5名に、自身の就活を振り返ってもらいました。1～3年生には、これから始まる就活の参考となるはずです。



教員志望でしたが、人と関わる仕事に惹かれ民間企業へ志望を変えました。合同会社説明会では、業界や業種を絞らずさまざまな企業の話聞くようにしました。60社以上のブースを回り、企業の人と対面することで資料だけではわからない情報が得られたと思います。その中で興味を持った5社のインターンシップに参加。最終的に広告業と人材サービス業に絞り、インターンシップ参加者対象の早期選考枠で人材サービス業に内定しました。

面接は練習通りにいかないと緊張するので、ほぼぶっつけ本番。とくに広告業は「自分を文房具に例える」と何ですか？」など変わった質問が多く対策が難しいと言えます。そして就活では、柔軟性や、自分の強みを把握して行動に移せる力が重要だと感じました。



山崎 楓 さん
(商学科4年)
ゆうちょ銀行

まわりに金融業界の人が多く、自分も自然に金融業界を目指しました。人と接することが好きなので、法人ではなく個人と関わる業務を軸にして、受けたのは道内の4社のみ。なかでも3年生の2月に、大学で開かれた就活サービス主催の企業説明会に参加して、業務や雰囲気、自分が合っていると感じたゆうちょ銀行を第一志望に決めました。4社中3社で会話重視の面談が行われ、話すだけでなく話を聞く姿勢も意識したこと、好印象を与えることができ、内定につながったと思います。

自己分析はアルバイト応募時の経験が生きました。どうしても働きたいと思ったところに応募するとき、志望動機や自身の能力など、思いついたことをスマホにメモしていたことで、自然と自己分析ができていました。



浦島 翼 さん
(観光産業学科4年)
株式会社マイナビワークス

最初は公務員一本に絞っていて、試験勉強を始めたのは2年生の冬からです。独学だったので、授業とアルバイト以外の時間はすべて勉強に当てました。途中で公務員だけでは厳しいと感じ、準公務員と民間企業にも広げました。就活ではキャリア支援センターを活用。週2回ほど通い、木村さんに自己分析やエントリーシートの書き方のアドバイスのほか、愚痴も聞いてもらいました。人と話すことで自分を深掘りできたと思います。また、普段から順序立てて話すことや伝わりやすさを意識し、面接では「自分はアウンサーだ」と思っただけで話さず、積極的に安心できます。

公務員の就活は長期戦なので、準公務員や民間も視野に入れておくのが良いと思います。内定が一つでもあると気持ち的に安心できます。



吉岡 菜恵 さん
(商学科4年)
日本年金機構

高校時代から英語が好きで、大学では韓国語を習得。得意の語学を生かせる仕事として、空港で働きたいと思っていました。最初から空港に絞り、受けたのは3社のみです。友達のお姉さんが空港に就職した方だったので、面接で何を聞かれるかなど教えてもらうことができました。また、ゼミの先生が航空業界に詳しく、まわりからたくさん情報収集できたのが大きかったです。

やっていて良かったのは、自分について理解を深めておくこと。ゼミのみんなに、私がどういう人かを聞いてメモするなど自己分析に力を入れました。実際に面接で「まわりからどんな人と言われますか？」と聞かれたとき役立ちました。そして頑張った語学も武器に、6月末には内定を勝ち取ることができました。



大木 那菜 さん
(観光産業学科4年)
ANA新千歳空港株式会社

辛かったのは、教員志望が自分一人だけだったことです。相談したり励まし合う人がいない中、教職担当の先生が北海道大学大学の教職課程の人と交流を持たせてくれたり、母校の高校の校長先生に面接練習をしてもらったりと、まわりの人の力を借りて乗り越えました。就活では、人とのつながりを作っておくことが大切だと思います。

教員試験採用



熊谷 陽向 さん
(商学科4年)
北海道公立学校教員採用
(高校・公民)

国際交流－韓国・中国・カナダ

本記事では、韓国・中国への交換留学生語学研修派遣や、カナダ・レスブリッジ大学への交換留学生夏期短期派遣についてです。

初めにアジア地域ですが、まず韓国・大田大学校派遣の1年次学生10名は李鳳教授が引率し8月28日に出発しました。派遣時毎回恒例の諸活動である、宿舍割り、各種歓迎会、近隣施設・設備の案内等の後には、早々に授業が開始され、李鳳教授が中心となり指導・相談にあたりながら、無事に修学・研修に就きはじめました。現地では、前学報36号でご紹介しました、交換教授ミン・ビョンフン教授も派遣学生たちの相談に加わってくださり、大変お世話になりました。心よりお礼申し上げます。

中国・煙台大学派遣の1年次学生10名は9月3日に移動を開始し、その後約一週間に渡り劉玗講師が引率し、派遣学生の勉学・生活等の指導・相談他にあたりました。煙台大学へは10月下旬に本学の堂徳将人学長も招聘されご訪問されました。派遣学生のみなさんには大国として繁栄を享受しはじめた今の中国の姿をその瞳に焼き付けて、帰国後の学生生活に役立ててもらいたいとの思いと共に、煙台大学との今後のますますの協力・発展を願ってやみません。

大田大学校と煙台大学のいずれも、引率教員が科目「社会と経済」を講義してきております。アジア地域はいずれも年明け頃の帰国予定です。



写真左上：中国煙台大学、
下：韓国大田大学校
写真右：カナダレスブリッジ大学

北海学園が交換協定を締結しているカナダのアルバータ州立レスブリッジ大学との事業がまたひとつ再開されました。北海学園大学との合同実施事業である、学生交換事業【派遣】（夏期海外研修）が実施され、本学からは4名が参加し、8月8日から9月1日の旅程で催行され無事に帰国いたしました。アンケートで4名とも充実した研修旅行と回答しておりますので、今年度、事業は成功裡に終えることができました。

(国際交流センター長 原子 智樹)



中国語スピーチコンテスト、参加者全員が活躍

“初生牛犢”、一年生奮闘！

10月12日、第42回「全日本中国語スピーチコンテスト北海道大会」が開催されました。これで今年度の北海道における中国語スピーチコンテストはすべて終了しました。本学から出場した学生全員が優秀な成績を収めました。

今回の「全日本中国語スピーチコンテスト北海道大会」には本学の1年生蛭名萌花さんが出場し、見事スピーチ部門で3位（北海道新聞社賞）に入賞しました。今までとは異なり、今年のスピーチ部門には、中国語を学習した経歴を持つ方、新聞記者などの経験豊富な社会人が多く参加しました。今までにない熾烈な競争の中で、蛭名さんは普段よりも堂々と発表して勝ち抜きました。会場に来られた彼女の高校の先生も、彼女の成長ぶりを見て大喜びでした。

また、5月に開催された第5回全日本大学生中国語スピーチコンテスト・第23回「漢語橋」世界大学生中国語スピーチコンテスト北日本ブロック（北海道・東北地方・長野・信越地方）大会においても、本学の観光産業学科4年生の渡邊そあらさんと、入学してわずか1ヶ月の1年生の久保詩音さんが出場しました。二人とも見事に入賞しました。渡邊さんはスピーチで発表した、「山川異域・風月同天」を揮毫して三等賞を獲得しました。一年生の久保さんも滔々と素晴らしいスピーチを発表して2位を得て、北海道代表として6月東京で開催された全国決勝大会に出場し、優秀賞を受賞しました。

今年度の中国語スピーチコンテストでは、1年生がよく活躍して輝きました。「初生牛犢不怕虎（生まれたばかりの子牛は虎を恐れない）」という中国の諺があるように、本学の学生は「開拓者精神の涵養」を継承し、新時代のニーズに応えるように自己研鑽して、より強く生きる能力を高めることを目指しましょう。（劉 玗）



写真左：左から劉玗講師、蛭名萌花さん、蘇林教授。
写真右：左から渡邊そあらさん、久保詩音さん

韓国語履修者の成果・活動

韓国語能力検定試験 (TOPIK) で合格者多数の快挙、各種コンテスト入賞や韓国語ボランティアに活躍！

去る7月14日、第95回韓国語能力試験が実施されましたが、本学は札幌における試験会場を提供しています。この試験には本学から25人（初級10人、中上級15人）の学生が受験しました。試験結果は8月22日に発表され、初級を受けた1年生は2級に全員合格、最上級の6級に1人、5級に1人、4級に4人、3級に5人という快挙を成し遂げました。特に4年生まで韓国語能力試験に挑戦し続け、ついに最上級の6級に合格した4年生の事例と、1年生にして4級に合格した事例は、特筆すべき快挙と言えます。

◆韓国総領事館主催「ウェブトゥーン創作コンテスト」で本学学生が1位など大活躍

このイベントは、韓国語を母語としない方を対象に、ウェブトゥーンの最後のコマに韓国語のセリフを入れて完成させるというものでしたが、本学の新屋敷 詩乃さん（3年生）が見事に1位を獲得しました。また、佐藤 天晴さん（4年生）と今野 梓紗さん（2年生）が4位、加藤 碧さん（2年生）と松浦 帆花さん（1年生）が5位に選ばれました。

※「ウェブトゥーン」は、韓国発のスマートフォンを縦にスクロールして読むタイプのウェブコミックです。日本では「縦読み漫画」等と呼ばれます。



◆「2024 韓日交流作文コンテスト」にて道内大学では最多入賞！

今年も、駐日本国大韓民国大使館韓国文化院と東京韓国教育院が主催する「2024 韓日交流作文コンテスト」が開催されましたが、本学の学生5名が見事に入選を果たしました。伊藤 空流さん（4年生）が、韓国語エッセイ一般部門で、紺野 一恩さん（3年生）が日本語川柳・俳句部門で、土田 滯那さん（4年生）と北原 里桜さん（2年生）と三浦 心さん（2年生）さんが 韓国語川柳・俳句部門でそれぞれ受賞しました。道内の大学からは合計6名の入賞者が選ばれ、そのうち5名が本学の学生です。また、日本語川柳・俳句部門の指導していただいた保坂智先生にもお礼を申し上げます。



◆日韓OB戦にて商科大学の学生が韓国語ボランティア通訳に挑戦

7月22日(月)、エスコンフィールドHOKKAIDOにて開催された日韓ドリームプレイヤーズゲームにて、韓国語を履修する本学学生15名が韓国語ボランティア通訳をさせて頂きました。当日は、千葉里美准教授と李鳳教授の指導の基、ファイターズスポーツ&エンターテイメント様よりご用意いただいたボランティア用特製Tシャツに身を包み、満点の笑顔で日頃の学びの成果を発揮しました。

◆駐日韓国文化院主催「ハングル カリグラフィーコンテスト」で優秀賞を受賞！

駐日韓国文化院（東京）では、10月9日の「ハングルの日」を記念して「ハングルカリグラフィーコンテスト」が開催されました。ハングルカリグラフィーとは、ハングル文字を使って美しく、かつ効果的にメッセージを表現する芸術です。単に文字を装飾するだけでなく、意味を強調するためにイラストや書芸の技法、デザイン的な要素を取り入れることもあります。9月10日に発表された結果では、土田 滯那さん（4年生）が見事に優秀賞を受賞し、一般部門で第2位を獲得しました。北海道からの唯一の受賞者でもあり、大変素晴らしい成果です。

皆様の素晴らしい成果に、心からお祝い申し上げます。
(水野 俊平 李 鳳)



留学だより

商学部1年 沖津 里花  韓国・大田大学校

私は、今年の2月から韓国の大田大学校に1年間の長期留学をしています。9月から後期の授業が始まり、私は韓国語の講義の他に会計関係の講義を現地の学生と同様に受けています。会計の授業は教材も分厚く、覚える事が多いため、ついていくのが難しく学校終わりにカフェなどを利用し勉強しています。またトーキングクラブという韓国人学生と言語交換をしながら交流をする活動に参加しているのですが、友達との時間を前期に比べてあまり作れない分トーキングクラブの時間に韓国語で会話をする事で実力向上を図っています。日本ではサークル活動やクラブ活動などに参加したことがありませんでした。

しかし、留学という限られた時間の中でより多くの現地学生と交流し韓国語の実力向上を図る為には積極的に行動しなければならないと考えました。そして、限られた時間を有効に活用することの大切さを学びました。勉強は大変ですが残りの留学生生活を悔いの無いように無理せず楽しみたいと思います。



写真左から体育祭の日本語学科の集合写真とダンス部の練習終わりに撮った集合写真

商学部1年 吉岡 那奈  中国・煙台大学

9月3日に出国し、私たちが中国留学を初めてから約1ヶ月間が経ちました。先日大学で国際文化祭があり、日本の文化体験ブースを出展しました。こちらは準備中の写真です。多くの中国の方々に日本の文化を経験していただきました。異国の地での生活に慣れなかったりと留学生活において大変なことも多いですが、それ以上に貴重な経験をさせていただき感謝しています。後悔のないよう、帰国の日まで気を引き締めて頑張ります。



写真は国際文化祭で出店した日本の文化体験ブースの準備

後 第1回「教員を目指す 先輩応援プロジェクト」 が開催される

本校の呼びかけにより、豊陽会が主催して現職教員が教職を目指す後輩を応援するための交流会が10月26日に開催されました。豊陽会（北海学園大学同窓会教員支部、会員約200名）には北海学園北見大学同窓会教員支部（クマガウ会）と北海商科大学同窓生教員が含まれますが、両大学卒業生の現役教員数は千百余名りに達します。

当日は現職教員約40名、本校および北海学園大学の教職課程履修学生約60名計100名余りが参加して第1回目となる記念すべき盛大な交流会となりました。

開会式では、本校の堂徳将人学長から挨拶が行われ「先輩教員と学生が対話することの意義」が述べられました。これに続く全体会では、豊陽会会長の久保肇先生（札幌手稲高等学校校長）と同副会長の高田安利先生（北海道教育庁高校教育課長）の講演が行われ、「教職の魅力や北海道教育の現状と課題」などについて考察しました。分科会では、本学4年生からの発表の後、現職教員と両大学の学生を交えて構成する複数のグループに別れて質疑応答が行われました。学生からは、現職の先生方から「教師のやりがいや魅力を知ることができた」「教職への不安を解消できた」などの感想が述べられました。また、参加された先輩教員からは「学生との対話で初心に帰ることができた」とされるなど、参加者にとって貴重で有意義な機会になりました。（山口 晴敬）



写真左上：分科会本学4年生の発表
下：分科会 教員と学生のグループ討議
写真右：全体会の様子

サークルのいま

「人との出会い、それが楽しい！」環境ボランティアサークル部長、鎌田新さんの目指す活動

商学科4年 鎌田 新 環境ボランティアサークル 部長

環境ボランティアサークルは、春の豊平町内会の花壇整備などに参加して大学周辺の環境整備活動に関わってきましたが、もっと地域に入り込んでいき、いろいろな方々と出会い活動の幅を広げていきたいと考えています。今年は札幌まつりで豊平神社のお神輿を担いだり、子供神輿にも参加しました。

私は中学生の時からボランティア活動に参加しています。身近な人だけではなく、いろいろな人と関わることができるボランティア活動に興味を持ちました。最初は少し抵抗がありましたが、思い切って飛び込んでみる、自分から行動することの大切さを感じるようになりました。経験したことのないことや新しい知り合いができて楽しい。誰もが他人と関わることの抵抗感、壁のようなものがなくなっていったら良いなと思っています。学外のezo rock（エゾロック）というボランティア団体の活動にも参加しています。夏に行われる野外ロックフェス、ライジングサンの清掃活動や旭岳の登山道整備などにも参加してきました。ボランティア活動ではありませんでしたが、今年の夏には観光産業学科の先生、学生たちと一緒に道北の中川町、中川マチヅクリ大学に3泊4日で参加しました。実際に体験をして、中川町の方々と地域課題を考える貴重な時間を過ごすことができました。これは、地域により深く関わるという、環境ボランティアサークルのこれからの活動課題につながるものでした。

卒業論文にも取り組んでいますが、残り少ない大学生活、サークル活動も悔いなく楽しみたいのです。是非一緒に楽しみましょう！



豊平神社の祭典ボランティアで



学祭に出店した環境ボランティアサークルの皆さん。後列左が鎌田さん

北海道庁によるセミナーを開催

10月22日（火）に商学科のゼミの合同講義として、北海道庁総合政策部の主催によるセミナーを開催し、商学科の2、3年生32名が参加しました。今回のセミナーは、堤教授が北海道庁の道州制特別区域提案検討委員会の副委員長を務めていることから開催につながりました。

『北海道から日本の「かたち」を考える』と題したセミナーでは、最初に行政連携課課長から道州制の概要や北海道庁職員の仕事について紹介があった後、道州制担当の職員の方からより詳細な解説をしていただきました。良い暮らしを実現させるためには、住民が積極的にアイデアを提案することが重要であるとのことで、セミナーの最後にはこれからの北海道や北海道庁のあるべき姿について学生が意見を出す時間が設けられました。私たちが住む地域やそのガバナンスのあり方について、現場で働く方々からお話を伺える良い機会となりました。

今後も、通常の講義だけではなく、合同講義などの仕組みを利用して、学生と地域とのかかわりを深める機会を設けたいと考えています。より実践的な教育を通じ、地域に貢献できる人材の輩出を目指します。（商科学科長 澤内 大輔）



写真左上：北海道庁職員による報告。
下：質問する相浦教授。写真右：セミナーの様子



研究のいま ● 益子 洋人 准教授

わたくしは、臨床心理士です。臨床心理士になる過程では、カウンセリングや心理検査を実施できるだけでなく、研究もできるようになればならないと指導されます。そのため、わたくしの研究者としてのアイデンティティは、およそ20年前に、臨床心理士になろうとしたときから始まりました。

大学院の修士課程では、「過剰適応」という、いわゆる「人に合わせすぎて、自分らしい感覚を失ってしまう」傾向について研究していました。その研究を続けていくうちに、人が過剰適応的になる理由は、相手との意見の相違が明らかになると、相手との関係性が壊れてしまうと思っているかららしいということがわかってきました。それなら、相手との意見の相違が明らかになっても、相手との関係性が壊れてしまうのではなく、もっと仲良くなれる（雨降って地固まるを実現できる）ようなやり方があれば、過剰適応しなくても良くなるのではないかと考え、「相手との意見の相違」＝「葛藤」（もめごと）解決の研究に関心を持つようになりました。そのため、わたくしの「もめごと」解決の研究の焦点は、ケンカや紛争といった狭く深い「もめごと」だけでなく、「相手との意見の相違」という、より低く浅いスケールのものを指しています。

もめごと解決の研究に着手し、最初に行ったことは、具体的にどのような行動をとると、雨降って地固まるを実現しやすくなるかをリスト化することでした。その結果、ポイントは、①相手と話し合うとき、お互いに納得できる解決策を目指すということ、②粘り強



く相手に働きかけること、③攻撃的でない方法で、自分のニーズを伝えること、④相手のニーズを理解することであることがわかりました。次に行ったことは、こうした行動をとるようにと思春期・青年期の人々に教え、その効果を測定することでした。その結果、これらの行動が過剰適応傾向の低減だけでなく、学習意欲の向上やもめごと解決スキルそのもののレベルアップ、チームワークの改善にもつながる可能性があることがわかりました。一方で、こうしたスキルを教えてもなかなか実行に移せない理由として、お互いに分かり合えるような話し合いを経験したことがなかったり、生活環境の中に話し合いを抑制するような（抑圧的で安心できない）雰囲気があったりする可能性があることもわかってきました。

このような研究を背景として、現在は、以下のような研究に取り組んでいます。第一に、発達早期から活用できる教材の開発です。安全で安心できる環境の中で子どもたちに練習してもらえるように、学校や家庭、地域が連携して活用しやすい教材にすることを目指しています。第二に、このスキルを連携・協働の取り組みに応用することです。チームワークの課題は、学校だけでなく、一般社会でも見られる課題であると認識しています。その解決に貢献していきたいと考えています。



地域との連携活動

今年度の地域との連携活動は、昨年度に引き続き創成イースト地区をフィールドとした札幌マチヅクリ大学2024、石狩振興局との厚田キャンプ場利用促進企画や石狩市内旅行プラン、中川町をフィールドとした中川マチヅクリ大学が活動しています。本報では、8月5日から8月8日、中川町役場と実施した中川マチヅクリ大学について紹介します。

学報Vol.36にて札幌マチヅクリ大学の記事が紹介されましたが、中川マチヅクリ大学の学びのフレームも基本同様で、中川町で活動する方々にキョージュとしてゼミを主宰してもらい、各ゼミが掲げる地域テーマと課題について、キョージュと活動を共にし、最終日に学生らによるテーマ課題についての提案を目指しました。テーマは、①なかがわスタイル小屋プロジェクト(空き家の増加と移住者増加による住宅不足)、②フィッシングタウン(豊かな川と釣り人のコンフリクト解消)、③エコモビリティ推進(化石燃料に依存しない移動アクティビティ開発)、④特産品開発プロジェクト(開発・販売・プロモーション)の4つで、観光産業学科9名、商学科2名、交換留学生2名の計13名が参加しました。合宿スタイルで、多様な人、様々な経験を通し地域課題に向き合った学生の最終発表はどれも若者らしいアイデアで、参加した学生からは提案からプロジェクトとして地域で活動したい!との動きが出ており、今後の展開が楽しみです。こうした学外での学生主体の取り組みに興味がある学生は、いつでも声をかけてください。地域に「愛する場所」、「居心地のいい場所」を作っていきましょう。（千葉 里美）



写真は集合写真、空き家の整備、提案のための準備



千葉ゼミナールの皆さん



ゼミⅢの3年生



ペロタクシーの試乗



生はいくつ何でも話しやすい、質問に的確に答えてくれます」と教えてくれました。学生と教員との距離の近さが、教室全体の明るい雰囲気につながっています。同時に、「ゼミ

デイスカッション中、千葉准教授は「へえそんなのあるんだ。いいね」「こっちはどう?」と次々に、かつ楽しそうにアドバイスしています。ゼミ生の今野梓紗さん(同2年)は「先生はいつでも何でも話しやすい、質問に的確に答えてくれます」と教えてくれました。学生と教員との距離の近さが、教室全体の明るい雰囲気につながっています。同時に、「ゼミ



ゼミ訪問

千葉 里美 准教授 ● 観光研究ゼミナール

観光産業学科の2年次後期、3年次後期に開講される「観光研究ゼミナール・Ⅲ」。千葉ゼミは観光分野の中で特に「地域交通」や「観光行動」に焦点を当て、フィールドワークでの調査を通し、観光交通ビジネスの現状と課題についてロジカルに整理すること、地域住民との関わりの中で自己表現力を高め協働することの楽しさを理解することを目指しています。



「ゼミ生には地域の観光産業を変えるような行動力、論理的思考、イノベーションを身につけていってほしい」と語る千葉准教授。そうしたいくつもの芽が、すでにゼミ生たちの中に力強く育っているのを感じました。

藤川里胡さん(観光産業科3年)は「まず自分たちでペロタクシーに試乗し、その特徴を生かして『こんなことできたいね』とアイデアを出し合って内容を詰めていきました」と話します。木戸浦匠太さん(同3年)は、「初めてのことがばかりで大変でしたが、多くの人と関わりを持てたことが良かったです」と振り返ります。ツアーの実施により、創成イーストの新たな観光スタイルや観光地としての魅力が発見され、じわじわと広がっているようです。

では書籍などに掲載されていない地域に根ざした課題解決を自分ごとと捉え、研究の面白さや意義を感じることができると語り、千葉准教授の熱意も伝わってきました。

もう一つ、ゼミⅢの教室では3・4年次生が今までの反省と次年度の課題についてデイスカッション中。4年次生はゼミの先輩、フォロ役としての参加です。話し合いは真剣そのもので、まるで企業の経営会議のようです。こちらのテーマは「地域交通『ペロタクシー』を活用した創成イーストの観光まちづくり」です。ペロタクシーとはドイツで開発された自転車タクシーのこと。ゼミでは札幌市の「さっぽろまちキャンパス共創事業」に申請し、資金を自分たちで調達しながら、ペロタクシーを活用して創成イーストが愛される街になるためのツアーを企画し、地域との交渉、販促、当日の運営まで、全てを実施しています。このユニークな活動は学外からも注目を集め、ニュースなどにも取り上げられています。

FD・SD 研修会実施

本学では、総合型選抜や学校推薦型選抜など早い時期に入学が決まった高校生に対し「入学前教育」として、①語学(英語、韓国語、中国語)を中心とした本学教員オリジナルのMoodle必修教材と、②希望者のみの教育事業者教材「学問サキドリプログラム」の2つを準備し、入学前から本学教員と教育事業者による大学の学びへのスムーズな接続をサポートしています。そこで、入学前教育を所管する入試広報センターでは、教務センターやFD・SD委員会と連携し、本学教職員がそれぞれの現場でより良い学生へのサービスや効果的な教育、さらには1年次から4年次の有機的な学びへの契機にしていだけること

目的に、8月2日、FD・SD研修会を実施しました。
SD研修会として開催した前半は、学問サキドリプログラムを運用するBenesseGroupの(株)進研アド・田村氏より入学前教育プログラムの実施状況から見える本学入学生の特徴についてご説明いただきました。後半のFD研修会では、本学オリジナル教材に携わっていただいている先生方(ニールセン教授、水野教授、保坂准教授、劉講師)より教材内容についてのご説明いただきました。研修終了後に寄せられた感想には、教育の動機づけや研究につながる情報が共有された本研修の機会への満足や感謝の言葉が多数寄せられた一方で、本研修が情報共有の場に留まり具体的な展開に向けた議論の場が持てなかったことへの要望や、入学前教育のデータを本学が持つGPAや満足度アンケートなどと統合し、よりトータルな教育、学生支援に向けた活用といった貴重な意見も頂戴しました。

(千葉 里美)

満員御礼!!今年も市民公開講座開催される

2024年度北海商科大学市民公開講座が11月16日(土)に開催されました。講座タイトルは「現在(いま)の北海道と北海道の将来(あす)～広大な北海道の人流と物流～」で、本学の伊藤寛幸教授と相浦宣徳教授が講義されました。司会は伊藤昭男教授でした。

伊藤寛幸教授は「北海道観光の真髄～北海道観光が一流であるために～」という題目で、北海道は、誇るべき観光資源(豊かな自然、魅力的な景観)のみに頼ることなく、北海道民が意識を一流に磨き上げることが、北海道観光のさらなる成長の鍵となる点が提示されました。かつて、北海道観光は、「自然一流、施設二流、料理三流、サービス四流、関係者の意識は五流」と揶揄された過去をもちます。しかし、その言葉を真摯に受け止め、課題を一つひとつ乗り越えた結果、今や北海道の地域ブランドは、他の都府県の追随を許さず堂々たるトップの座を守り続けている点も示されました。

次ぐ、相浦教授は「島国・北海道からみた全国貨物鉄道ネットワークの行く末～物流を考えることは、次世代へ残す国・北海道の姿を考えること～」という題目で、昨今の北海

HSC 研究会開催

本年の「HSC研究会」について、以下、簡単ではありますがご紹介します。

- 「第1回 HSC研究会」日時：7月18日(木) 18：00～。場所：2号館2203教室。
講演者：三田村 保先生。演題：「知識情報学から医療、ゲーム、教育、観光への展開」(司会：伊藤 昭男先生)
- 「第2回 HSC研究会」日時：10月24日(木) 18：00～。場所：1号館8階。
講演者：山口 晴敬先生。演題：「現場の教師が『教師教育研究者』を目指したのはなぜか」(司会：蘇 林先生)



写真左：講演を行う三田村保教授。右：山口晴敬教授

《内容骨子》

三田村先生による講演(「第1回 HSC研究会」)では、①三田村先生のこれまでの職歴(北海道大学大学院時代、旭川医科大学時代、北海道科学大学時代)の紹介および既往研究の紹介・説明、②研究・教育における重点事項(観光情報学、情報教育、企業との共同研究など)についての紹介・説明、③現在継続中および、これから進めていく予定の研究・教育について、の説明がなされました。

山口先生による講演(「第2回 HSC研究会」)では、①これまでの経歴(高校教師になるまでの経緯、高校教師時代の赴任の状況)の紹介、②博士論文の研究内容の紹介、③今後の高校教師(特に初任期)の勤務上における問題・課題について、の説明がなされました。(伊藤 昭男)

道物流における課題と影響について、貨物鉄道輸送、トラック輸送、船舶輸送、各々の課題とそれらが相乗し、北海道での生活、産業、そして全国各地へ影響することを示しました。

今回も、満員御礼での開催となり、会場の皆様からも時間が足りないくらいの多くの質問をいただきました。ご参加くださった皆様に感謝申し上げます。次回は来年度の秋に開催する予定です。皆様のご参加をお待ちしております。(学術発展センター長 相浦 宣徳)



写真右・中：講義を行う伊藤寛幸教授、伊藤昭男教授、相浦宣徳教授。写真左：右から司会の伊藤昭男教授、伊藤寛幸教授、相浦宣徳教授。

OB・OG NOW!



今回の「OB・OG NOW!」は、2020年度商学科卒の吉澤直希さんです。商学科卒でありながら世界レベルのコンペティションで受賞した背景と世界の舞台で学んできたことについて、寄稿していただきました。

UNIQLOが企画するコンペティション、「UT GRAND PRIX 2024(以下、UTGP20240)」の9名の受賞者の中に選ばれ、トロフィーを授与されました。「DISCOVERIES OF THE LOUVRE (ディスカバリー・オブ・ザ・ルーヴル)」をテーマに世界各国から集まったデザインの応募総数は約1万件でした。授賞式はパリにあるフランスの国立美術館-世界最大級の美術館であるルーヴル美術館-にて行われました。会場にはメディアやインフルエンサーなど、200名を超える来場者が訪れ、「UTGP 2024 POP-UP Store in Louvre Museum (以下、UTGP 2024 POP-UP Store)」のお披露目とともに、大変にぎわいを見せていました。

私がこのコンペティションに応募したきっかけは、アーティストとして活躍する幼馴染の頑張る姿に負けじと食らいつきたかったからです。兎に角結果が欲しかったので、この企画に応募しました。

この経験で幾つか学んだ事があります。中でも実感した事は、よく耳にする言葉ですが「チャンスは皆平等にある」事。今回UTGP2024年で受賞された9名のうち、デザイン無関係者は私1人でした。私自身"素人"ではないが、それでも趣味程度にデザインを制作していたレベル。その私がなぜ、チャンスを掴めたのか…それは、「追求し続ける事」と「タイミング」が重要だったからです。ある一定の基準まで能力を上げ、その能力に付加価値をつける事(今回の私で例えると、能力は画力やデザイン性になる)。物事を追求し続け、自分

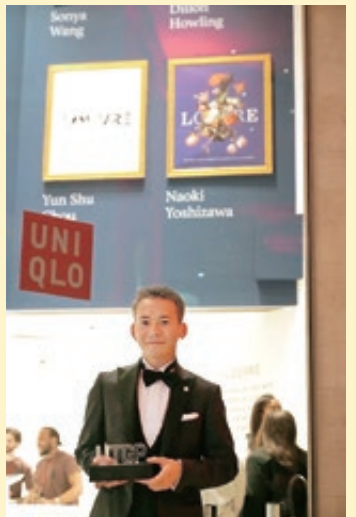
●フリーデザイナー

吉澤 直希さん

[2021(令和3)年 商学部商学科卒業]

の経験・考えを付け加える。点と点が繋がる時初めて自分の武器となる。そうすると自ずとタイミングも見えてきます。

今後の活動は未定ですが、自分の知らない世界を体験して多くのインスピレーションを受け作品作りを徹底したいと思っています。機会があれば、世界を舞台に作品を届けたいと考えています。



写真はフランス国立ルーヴル美術館で行われた授賞式で



写真は本学で行われた特別講演会



第30回全国進学指導研究大会、本学にて開催

涼風が立つ9月19日(木)、20日(金)の2日間、道内はもとより全国各地から来札された高校の先生方が本学にて研究発表を行いました。初日は開会式および2つの講演会、2日目は4つの分科会ごとの研究発表と閉会式という充実したプログラムとなっており、本学からは会場校挨拶として堂徳学長、大学紹介として佐藤千歳教授、そして基調講演として三田村教授の3名が登壇しました。

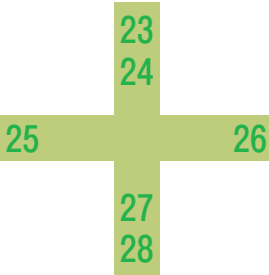
人工知能の応用や観光情報学を専門とする三田村教授の講演は、日本における科学技術・イノベーション政策を経済産業省や観光庁、さらに文部科学省の政策に細分化し整理した上で、今後必須となるデータサイエンス・AIの教育を本学での実践をふまえて提言するものでした。高校で「情報Ⅰ」が必修となり、高大接続も重視される状況の中、大学としてもデータサイエンス・AIに関する学生のリテラシーを高めていくことが求められています。本学でも取り組みを促進していく所存です。最後に、1年以上前から準備を進めてこられた実行委員を中心とする関係各位のご尽力に深く敬意を表します。(保坂 智)



写真右は挨拶を述べる堂徳将人学長と基調講演を行う三田村教授

新刊紹介

『スクールカウンセラーのための
主張と交渉のスキル
多職種連携の壁を乗り越える』
益子洋人(本学准教授)ほか共著
2024年9月／金子書房



医務室から『二十代の健康』⑰ 医務室 西川 葉子

あなたの目疲れていませんか？

今や私たちの日常に欠かせない存在となったパソコンやスマートフォン。目がショボショボする、かすむ、乾くなどの症状は、長時間利用による目の負担や筋肉の緊張により起こります。この症状が慢性化すると、頭痛や肩こりといった目以外の不調につながることも。大切な目を守るために、今できることから始めてみませんか。

1.意識してまばたきをする

スマホなどの画面を見続けると、まばたきが減り、涙が蒸発しやすくなります。こまめにまばたきをし、涙で目を潤しましょう。

2.休憩をとる

パソコンなど作業の場合1時間に1回は休憩をとり目の筋肉の緊張をやわらげましょう。休憩の際は、軽い体操や意識して遠くを見るようにしましょう。

3.目の体操をする

- 眼の筋肉を動かしほぐす体操です。頭は動かさずに視線だけを動かすのがポイント。1日に数回行いましょう。
- ①眼球を上下に動かす
 - ②眼球を左右に動かす
 - 左右の親指を肩幅くらいに立てて、左右の親指を交互に見る。
 - ③眼球を回す
 - 円を描くようにゆっくり目を回す。時計回りと反時計回りで回しましょう。

4.ツボ押しをする

目の周りには疲労を回復するツボが多くあります。指のはらで気持ち良さを感じる程度の強さで刺激しましょう。



- ◎攒竹（さんちく）：眉頭の少し下にある小さなくぼみ
- ◎上清明（じょうせいめい）：目頭と鼻の付け根の間
- ◎承久（しょうきゅう）：黒目の真下のくぼみ、骨のふち
- ◎太陽：目尻と眉尻の中間点から、親指の幅1本分だけ耳側にあるくぼみ

5.目をあためてデトックス

目の疲労回復のためには、温めて血流を良くし、疲労物質を排出させることが大切です。また、温めることで涙の質が良くなりドライアイにも効果的です。タオルを温めても良いですが、市販のアイマスクが便利です。

札幌市との包括連携協定締結

北海商科大学と北海学園大学が札幌市との包括連携協定のために、2024年9月18日(木)10時～締結式を実施しました。北海商科大学(学長：堂徳将人)、北海学園大学(学長：森下宏美)、札幌市(市長：秋元克広)は、それぞれが有する資源を持ち寄り、協働してまちづくりに取り組むことにより、地域課題の解決に寄与していくことを目的として、包括連携協定を結ぶことで合意いたしました。知の拠点である両大学と札幌市が連携し、下記の事項について取り組み、地域における知と人材の循環を創出していくことを目指します。

本学から参加した堂徳学長は、連携協定書への署名を行うと共に、本学のアジア、ビジネス、観光に関する知見を活用し、札幌市の人口減少問題に対応した教育プログラムづくりや研究の取り組みを宣言しました。

今後は、札幌市と次年度からの具体的なプロジェクトや連携体制構築に関する検討会を定期的に開催すると共に、北海学園大学の開発研究所や地域連携推進機構と有機的に連携する体制を構築する予定です。

また、当日の様子については、北海道新聞社をはじめ、NHK、HBC、Yahoo!ニュース等でも取り上げられました。(池ノ上 真一)



写真は右から堂徳将人学長、秋元克広札幌市長、森下宏美北海学園大学学長

Wi-Fi の開設、エアコン設置、プロジェクターの更新について

本学では2024年度後期から構内各所に無線LANのアクセスポイントが設置され、学生は構内であればWi-Fiによって自由に自身の端末を学内ネットワークに接続できるようになりました。今後一層、授業等のデジタル化が進む中で必然的に端末を使用する機会も増え、データ通信量も増えていきます。情報公開がオンライン上で行われていることも増えてきました。データ通信量を気にせず使用できる情報通信環境が整うことによって、ますます学修効果が向上することを期待します。

また、昨今の厳しい夏の気候への対応として、1号館3階の各教室(301・303・305教室)にエアコンが設置されました。学生と教員がともに汗を流して勉学に励む時代も悪くはなかったですが、北海道であっても命の危険を伴う暑さへの対策が必要になってきました。301・303教室では、プロジェクターとスクリーンの更新も行われました。これまでとは違い、教室の電灯を暗くしなくともスクリーンに大きく明瞭な画像を投影できるようになりました。今後、他の教室のプロジェクターの更新も進めていきます。

(情報システム運営委員長 見附 陽介)



行事予定 (2024 年 12月12日現在)

12/13	総合型選抜(Ⅱ期)会場設営日	2/21	一般選抜合格発表
	学校推薦型選抜(併設校)会場設営日		大学入学共通テスト利用選抜(Ⅰ期)合格発表
12/15	総合型選抜(Ⅱ期)試験日	2/25	合同企業セミナー
	学校推薦型選抜(併設校)試験日	3/1	卒業生発表
12/20	総合型選抜(Ⅱ期)合格発表	3/8	後期修学指導面談(卒業延期者)
	学校推薦型選抜(併設校)合格発表	3/12	大学入学共通テスト利用選抜(Ⅱ期)合格発表
12/27	冬季休業開始	3/18	卒業証書・学位記授与式／卒業生を送る会
2025/1/8	冬季休業終了	3/21	オープンキャンパス会場設営日
1/9	講義再開・振替講義日(月曜日)	3/22	学年末休業終了
1/17	卒業論文提出期限	3/23	第4回オープンキャンパス
1/18	大学入学共通テスト試験日	3/24	各センターガイダンス(予定)
1/29	後期講義終了	3/25	次年度前期・新2年次履修相談/登録日/後期修学指導面接(成績不振者)
1/30	学年末休業開始/後期・成績開示(予定)/	3/26	次年度前期・新3年次履修相談/登録日/後期修学指導面接(成績不振者)
1/30	後期・成績異議申し立て受付開始(予定)	3/27	次年度前期・新4年次履修相談/登録日/後期修学指導面接(成績不振者)
2/3	後期・成績異議申し立て受付終了(予定)		
2/7	一般選抜会場設営日	3/27	次年度前期・新4年次履修相談/登録日/後期修学指導面接(成績不振者)
2/8	一般選抜(3教科型)試験日		
2/13	一般選抜(2教科型)試験日	3/28	全学年履修登録訂正日